

【GRAPH EXPO 2015 出展レポート】

去る9月13日から9月16日までの4日間、米国のシカゴに於いて、総合印刷機材展「GRAPH EXPO 2015」が開催された。昨年は、パッケージ印刷関連の展示が多く行われていたが、今回の「GRAPH EXPO」では、『digital digital』というタイトルどおり、どの出展者もデジタル印刷を全面的にPRしていた。

ラベル、パッケージ、Page wideなどを含む、商業印刷を対象にしたデジタル印刷機器の出展が多くを占め、特に印刷速度や印刷品質の向上を強調して、各メーカーとも1200dpi対応の高級印刷に向けた展示を行っていたのが特徴的で、デジタル印刷機が商業印刷向けの品質へと展開を進めているようだ。

東京機械製作（以下、TKS）は、「ジェット

リーダー」と海外向け4x1輪転機「COLOR TOP 5000UDI」を、パネルとサンプル展示で紹介した。また、期間中には、昨年同様、Topweb社の協力により、稼働中のジェットリーダーの見学会を行った。同社ブースを訪問した来場者や顧客との打合せについては、デジタル印刷に関する内容がその9割を占め、なかでも、ジェットリーダーの評価や、機能・性能に関する貴重な意見を聞き、今後の展開に向けた潜在ニーズを把握することができたものと捉えている。

また、会場で開催されていたセミナーの中には、『デジタル印刷機を如何に新聞印刷に活用するか』、『新聞印刷に於ける、オフ輪対デジタルの比較』などのパネルディスカッションやプレゼンが行われ、デジタル機による新聞印刷の風潮は年々高まってきた。

振り返って見ると、TKSがジェットリーダーを出展した「dr

pa2012」に於いて、同社は他社に先駆けて、デジタル機による新聞印刷を実演してみせた。が、当時は、このような「新聞」に特化したデジタル印刷に関するセミナーやパネルディスカッションなどにはなかった。

その後の「World Publishing Expo||WAN·IFRA（国際新聞技術研究協会）」主催の展示会や今回の「Graphic Expo 2015」に於いても、そういった話題が取り上げられるようになったことを思うと、非常に感慨深いものがある。来年の「GRAPH EXPO 2015」は、2016年9月25日～28日に米国フロリダ州のオーランドにて開催される予定。



【京都新聞ホールディングス 久御山工場の納入機 カラートップセンチュリー本稼働開始】

去る10月1日、京都新聞ホールディングス・久

御山工場が導入した、TKS製オフセット輪転機「カラートップセンチュリー」が、本稼働を開始致した。今回導入した輪転機は、3CT4／4・2CT1／1・1F・5Rの1セットで、40頁24個面カラー印刷が可能。

これまで、京都新聞ホールディングスでは、久御山工場の既設「カラートップセンチュリー」2セットと本社工場にあるTKS製輪転機2セットを併せ、合計4セット体制での印刷が行われていたが、かねてより効率の観点から工場一元化を検討されていた。

結果として、久御山工場を一部増築したうえで、「カラートップセンチュリー」を更に1セット増設し、トータル3セット体制のもと、新聞製作拠点を久御山工場に一元化することとなった。今回の導入により、久御山工場では、「カラートップセンチュリー」の3セット体制が整ったが、現在のところ、新設機の仕様に合わ

せた改造工事を、既設の2セットに対して順番に行っているところ。

京都新聞ホールディングスでは、この改造工事が完了するまで、これまで通り本社工場にある既設2セットを併用した4セット体制での運用となる。なお、改造工事は順調に進んでおり、11月中には完了し、久御山工場の完全一元化は2015年12月を予定している。